

## 第7回（平成19年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2007年1月23日（水） 14：30～17：30

場所：文部科学省 18F 研究開発局 第1会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）  
安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）北村晃寿（静岡大学）  
小平秀一（海洋研究開発機構）坂本竜彦（海洋研究開発機構）山崎俊嗣（産業技術総合研究所）  
山田泰広（京都大学）山本啓之（海洋研究開発機構）

### オブザーバー：

戦略講演者：保柳康一  
文部科学省海洋地球課：宿利一弥 戸谷洋子  
海洋研究開発機構 国際課：花田晶公 笹山岳大  
海洋研究開発機構 CDEX：川村善久 江口暢久  
地球科学技術総合推進機構：西村良弘  
事務局：中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

### 欠席者（敬称略）

執行部：井上麻夕里（東京大学海洋研究所）高澤栄一（新潟大学）  
日野亮太（東北大学）松本 剛（琉球大学）

### 議事次第

#### 報告事項

1. Canterbury, Wilkes Land 乗船者応募状況 [荒井委員, 事務局] [資料 1]
2. SASEC 参加報告 [川幡部会長: SASEC 委員]
3. IFREE による IODP 関連構造探査の進め方 アンケート状況について [事務局, 小平委員]
4. J-DESC 会員・賛助会員勧誘状況 [事務局] [資料 2]
5. J-DESC 予算執行状況報告 [事務局] [資料 3]
6. J-DESC 役員（監査役, 対 AESTO 担当役）の選出開始 [事務局]

#### 審議事項

6. SPC alternate 選出について
7. 研究航海戦略検討
  - ・ カテゴリー 1（すでに募集して乗船者がきまっているレグ）  
Exp. 319 Pacific Equatorial Age Transect [阿波根委員] [資料 4(1)]
  - ・ カテゴリー 2（募集している．試料分配について前哨戦）  
Exp. 318 Bering Sea [坂本委員]
  - ・ カテゴリー 3（すでに募集しているが乗船者がきまっていないレグ）  
Exp. 321 Canterbury [保柳氏] [資料 4(2)]
  - ・ カテゴリー 4（3月のSPCに向けて、航海実施をめざすレグ）  
No. 612-Full13 : "Geodynamo" [山崎委員]  
No. 601-Full13 : "Okinawa Trough Deep Biosphere" [高井氏] [資料 4(3)]
8. NSF-MEXT 会合報告 [宿利企画官]
9. Exp. 315 芦コチーフからのお願いについて [資料 5]
10. J-DESC 2008 年定例総会開催日程について [事務局]
11. その他
  - ・ 3月のコアスクールにおける乗船者 VCD 訓練について [資料 6]
  - ・ SSH 情報交換会での DVD 配布について [事務局] [資料 7]
  - ・ 次回開催予定日確認 等

## 議事録（案）

### 報告事項

#### 1. Canterbury, Wilkes Land 乗船者応募状況 [荒井委員, 事務局]

資料1に基づき、標記の件について荒井委員より説明がなされた。

- Canterbury が4名、Wilkes Land では3名の応募者があった。
- 今月末まで2次募集（Wilkes Land）、3次募集（Canterbury）を行っている。
- これまで、2次・3次募集をかけるのはIOに提出した後で募集していたことが多かったが、今回は1次募集で応募が来なかった事による2次募集である。
- これに関するランキングの決まりを明確にしていなかったため、事務局に個々から問い合わせがあった。
- そのため、今後は以下のルールを設ける。
- 1次募集で応募者が定員に満たない場合、追加応募をかける。このとき、1次募集応募者がある程度優先され、2次募集での応募者は同等または低いランキングがなされる。
- 例えば、1次応募者がAやBのランクの場合、2次応募者はBまたはCにランクされる。1次応募者がAのみの場合は、2次応募者はA、B、Cのランクとなる。
- 資料1について、リストをIOに提出する際は、応募者のTitleなど、用語をある程度統一するとの指摘があった。
- 本議題に関しては、特に意見はなかった。

#### 2. SASEC 参加報告 [川幡部会長: SASEC 委員]

標記の件について川幡部会長より報告がなされた。

- 2009年秋に、次の10年のISP策定のためのBig meetingを開催する。ドイツ、日本、アメリカなどが開催地として立候補。最終的な開催地決定は利便性や経済性を元に決定される見込み。
- このミーティングの人選についてはJ-DESC主導で行う予定である。日本で開催されることになれば、現執行部と次期執行部で協力してやっていくつもりである。
- Implementation Planは分野を絞った部分について修正の後、もう一度コミュニティに提案する予定。
- モホなど、大きなプロジェクトについては2009年秋のミーティング時に出してもらい検討する。
- 次のSPCで36のプロポーザルのre-rankingを行う。

#### 3. IFREEによるIODP関連構造探査の進め方 アンケート状況について [事務局, 小平委員]

事務局、小平委員より標記の件について説明がなされた。

- 1/15の締め切り時点で3件のアンケートを回収できた。
- 今回のアンケート結果では、いずれの提出者も早急な事前調査は求めている。
- 宣伝の仕方をより工夫し、プロポーザルのモチベーションを高めていきたい。
- プロポーザル評価育成委員会を早急に立ち上げる必要がある。これに関しては、総会を考慮し、3月中旬にメンバーまで決定する。来月、5人（川幡部会長、小平委員、山本委員、安間委員、山崎委員）で案の作成に取り組む。
- アンケートに関しては、締め切りを決めずに随時受け付けてもらえると助かる（保柳氏）。
- 来年度からは、事前調査専門部会と相談の上、定常的に募集している状態にし、一定期間でアンケートをプールする状態にしておく予定。
- サイトサーベイの必要性やその時期を評価・アドバイスするのも評価育成委員会の役目のひとつ。

#### 4. J-DESC 会員・賛助会員勧誘状況 [事務局]

事務局より、資料2に基づき標記の件について報告がなされた。

- 今年度から新たに2機関新加入（京都大学人間・環境学研究科、JAMSTEC地球環境観測センター）があった。
- 賛助会員の上山試推工業が今年度限りで退会する。
- 民間の賛助会員への勧誘を行っている（船の運航関係が中心）。
- 次は山形大学と鹿児島大学へ勧誘を行い、今年度最低5機関の会員増を目指す。
- 個人会員は作らない予定であったが、J-DESCとしては機関として入会してほしいということから、基本的に個人会員は退官した先生が入る種別であることが背景となっている。

-JPGUでのJ-DESC情報交換会について-

- JPGUの時にJ-DESC情報交換会を行うことが承認された。
- 日程はJPGU事務局と相談し、JPGUの懇親会をはずし、地球掘削科学セッションの日に開催することを検討中。

- チラシをつくる。おもてには開催予定・概要、裏には会員機関リストを掲載する（Ocean Readership を参考にする）。
- 会員機関からの参加者は参加無料。それ以外からの参加者は 1,000 円程度のカンパをもらう。

-成果の収集について-

- 成果を出してもらうための支援として、IODP の結果による論文が Scientific Drilling などの学術雑誌等に出版されたら（共著でも可）、1 件 5 万円の手続き・別刷り代を支援することを検討する（会員増により 100 万円ほど増収になったらという条件付）。
- 優先順位は乗船者、onshore メンバー、サンプルを使った研究者の順に高く設定する。
- 一人当たりの支援の上限も設ける。
- これを検討するためのワーキンググループを設置する（阿波根部会長補佐、山田委員、坂本委員）。

## 5. J-DESC 予算執行状況報告 [事務局]

事務局より、資料 3 に基づき標記の件について報告がなされた。

- ニュースレター vol. 2 の英語版を刊行することが合意された。

## 6. J-DESC 役員（監査役，対 AESTO 担当役）の選出開始 [事務局]

事務局より、標記の件について報告がなされた。

- 監査役と対 AESTO 担当役（J-DESC の決裁を行う役）が今年度で任期満了となるため、理事会で選出の手続きを進める。

審議事項

## 6. SPC alternate 選出について

標記の件について事務局から説明がなされ、北里氏に代理出席を依頼することが合意された。

## 7. 研究航海戦略検討

- ・ カテゴリー 1（すでに募集して乗船者がきまっているレグ）

Exp.319 Pacific Equatorial Age Transect [阿波根部会長補佐]

[資料 4(1)]

阿波根委員より、標記の件について説明がなされた。

- プロポーザルは 1 つだが航海は 2 つに分かれている（317 と 319）。サンプリングパーティーは 2 つの航海が終了してから行う。
- 太平洋は新生代を通じて最も広い海洋であり、グローバルな気候変動に大きな役割を果たしている。
- これまでの DSDP および ODP の Leg では、気候変動と Biogeochemical cycle の関連性がよくわかっているが、新生代の全体の顕著な気候変動、あるいは気候変動の漸移時期に赤道太平洋がどのような役割をしたかということについては未解明。
- PEAT では、古海洋の復元に有用な石灰質堆積物が堆積しているセクションをつなげていくことによって、新生代の連続した記録を得るのが目的である。
- 国内の Paleontologist が古生物学会の際に集まってサンプリングに関する打ち合わせを行う。
- 3 月初めに外国人 Co-Chief が来日することになったため、他の国内乗船者も集めて打ち合わせを行う。
- サンプルリクエストが集中することは予想がつくため（Oligocene/Eocene など）、日本としてよいサンプルを手に入れるために、国内乗船者のみでミーティングを行う。
- この航海が終了したら、執筆者の許可を得て閲覧できる航海成功のためのマニュアル（ガイドブック）を作り、蓄積していく必要がある（川幡）。

- ・ カテゴリー 2（募集している。試料分配について前哨戦）

Exp.318 Bering Sea [坂本委員]

坂本委員より、標記の件について説明がなされた。

- ベーリング海の北極海、太平洋とのつながり、解氷、陸域からの流入（Land-Ocean Linkage）などをキーワードとして科学的成果が求められる。
- サンプルリクエストは 3 月～4 月。
- 1 月 9 日にミーティングを開いた。戦略としては中央部に位置するパウワーリッジのサイトにおいて成果を挙げることを目標とする。
- アメリカ側からは、1 機関に 10 台程度の MS があるのに匹敵する能力がある。それに対抗する分析能力を日本が持っていることを主張しなければよいサンプルをとっていかれてしまう。
- そのためには、乗船研究者と関係する研究者とでチームを組んでやっていかなければならない。
- サンプルリクエストのよい例をまねて出すことを考えている。

- この航海のパーティーでよいサンプルリクエストの例を作ってもらい、今後の参考としたい（川幡）。
- 同位体分析のためのピッキングは律速になるため、Paleontologist がたくさんいる日本でやることを主張してもよいかもしれない（阿波根）。

・ カテゴリー 3（すでに募集しているが乗船者がきまっていないレグ）

Exp.321 Canterbury [保柳氏]

[資料 4(2)]

保柳氏より、標記の件について説明がなされた。(57:20)

- 航海の目的は、Canterbury Basin の浅海域での掘削により、海退期における埋積過程や海水準変動の振幅を明らかにすること。
- 現在の応募者状況としては、Sedimentologist は日米欧で足りているが、Paleontologist が不足している（珪質化石専門がほしい）。
- 片岡氏（新潟大学）、IFREE の Physical Properties 研究者、河瀨氏（横浜国立大）などに当たってみる。
- 残り乗船枠 3（1：ニュージーランド人、2：国内の研究者）。埋まらなかった場合は、国外に譲ることもありうる。
- ニュージーランドから何人来ても受け付ける。最終的には Co-Chief による選出で調節する。

・ カテゴリー 4（3月の SPC に向けて、航海実施をめざすレグ）

No.612-Full3 : "Geodynamo" [山崎委員]

山崎委員より、標記の件について説明がなされた。

- 過去約 1 千万年間の古地磁気の変動を解明するのがひとつの大きな目的。これ以外にもいくつかのテーマがある。
- プロポーザルとしてはよくできているが、前回の SPC で上位にされなかった理由として、SPC の日本委員の意思統一が事前によくなされていなかったことが挙げられる（事前の国内打ち合わせで意思統一を図ることが必要）。
- 現在の船の状況を考えて、離れたサイトを掘削するプロポーザルは厳しい評価を受けると考えられる。逆に、onboard で分析する必要がある場合、Piggy Back でやるのは IODP にふさわしい新しいスタイルとして認められるかも知れない。（江口）

8. NSF-MEXT 会合報告 [宿利企画官]

宿利企画官より標記の件について説明がなされた。

- SASEC の前と後に NSF-MEXT 会合が行われた。
- 新規参加国（インド、オーストラリア）および韓国の 10 月以降の覚書更新について話し合われた。
- 予算の確保には努めているが、科学を優先するためにはマネジメントなど、間接費的な経費は節約していきたい。
- 2013 年以降の活動についての国際会議について話し合われた。
- IODP-MI 札幌のオフィス移転について、来年の 3 月までに新しいオフィスを決定すべく、AESTO、JAMSTEC と分担して探している。

9. Exp.315 芦コチーフからのお願いについて

[資料 5]

事務局より、資料 5 に基づき標記の件について説明がなされた。

- Exp. 315 の芦 Co-Chief より、以下の質問があった。
  1. 315 において、317 で掘削する予定だったサイトを掘削したが、317 に乗船する予定だった人をサンプリングパーティーに加える場合、その人たちの旅費を支援してもらえるか？
    - ・ 今回掘削されたサイトは、315 で Alternate として予定されたサイトを掘ったため、実際には 317 ではない。
    - ・ Alternate サイトなので、314-316 の人もサンプルリクエストを出していない。今後サンプルリクエストをどの範囲に認めるか（317 の乗船予定者まで認めるかなど）はまだ決まっていない。
    - ・ J-DESC としては、CDEX に IODP の shorebased scientist として認知された人に関しては支援を行う。それ以外は支援できないという方針でいくことが合意された。
  2. サンプリングパーティー開催時に現地でのバイトを雇えるか？
    - ・ IODP のプログラムとしてやるのであれば、CDEX は陸上においても適切な科学支援を行うため、実際に必要になってもアルバイトを雇う必要は無い。

10. J-DESC 2008 年定例総会開催日程について [事務局]

事務局より、標記の件について説明がなされた。

- 4 月 6 日（日）開催で調整を行うことが承認された。

- 毎年4月第1週で調整する。

## 1.1. その他

- ・ 陸上掘削部会との懇談会について
  - 12月20日に陸上掘削部会との懇談会を行い、より深く連携を行っていくこと、および以下のことを確認した。
  - 川幡部会長より、標記の件について報告がなされた。今後陸上部会と協力していくこととして、ドイツとの長期人材交流を行っていく。
- ・ 国際関係事項
  - 韓国とのプロポーザル実現のため、東シナ海のテクトニクスをテーマにする。日本からの代表者は松本委員。これに関しては、日本のコミュニティーからのプロポーザルとして、来月からの課題として取り組む。韓国人とフランス人を交えて、3者でプロポーザル実現を検討する。
  - このために松本委員が韓国に赴き、韓国側と具体的な協議を行う（J-DESCから旅費を支給）。
- ・ 3月のコアスクールにおける乗船者VCD訓練について  
坂本委員より資料5に基づき、標記の件について説明がなされた。
  - 乗船が決定している参加者の旅費については、Pre-TrainingとしてJAMSTEC委託経費から支出する。乗船決定していない参加者の旅費はコアスクールの支援として補助する。講師旅費については、J-DESCの予算に項目名を新たに設けて、支出する。
  - Sedimentologistとしての乗船者には必須のスキルであるため、執行部直轄のスクールとする。
  - CDEXとしては、J-CORESを日本人研究者にだけでもスムーズに使ってもらい、使える船上ツールであることをアピールするためにも、講師など無償で協力することが可能。
- ・ SSH情報交換会でのDVD配布について [事務局]  
標記の件について資料7に基づき説明がなされた。
  - JSTが主催するスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の関係者（約300人が参加）の情報交換会で配布を行った。
- ・ 次回開催予定日確認 等  
今回は2月15日（金）、JAMSTEC東京事務所  
海外案件（日独、日韓）について北里氏をゲストに迎える。